

《私達は愛される者・希望である》

おめでとうございます。

2000年前の今日、ベツレヘムのある村で、泊まる旅館もなく馬小屋で生まれ、飼い葉桶に寝かされた赤ちゃんイエス、その誕生のことを私達は何故祝うのでしょうか。私達だけでなく、全世界、信者であっても信者でなくても、町のあちこちがとてにぎやかで、喜びに溢れる雰囲気があります。何故その様にするのでしょうか。

今日、私は皆様に会う前に、イエス様がこの世に生まれたことを何故私達はお祝いしなければならないのか、なぜ喜ばなければならないのか、その答えを探して黙想してみました。

二つの点について考えてみました。まず一つ目は、神様は皆様が生まれる前から皆様を愛している、それを示そうとイエス様が来られたことです。

さあ、どういう意味ですか。私達は何故生まれたのでしょうか。生まれて何のために生きているのでしょうか。誰か答えて下さる人はいませんか。

「親が生んでくれたから」と言われてしまったらそれは困りますが・・・

何で生まれたのでしょうか。覚えて下さい。私達が生まれた理由は“愛されるため”です。私達は愛されるために生まれました。私達は愛されなかったら“死”にます。もちろん、限界のある人間的な愛であっても、愛されなければ寂しい。

私達が生まれた理由、目的は愛されるためです。皆様が愛されるためにどうすればいいか、それを悟りながら生きて行くのが信仰の道です。

「神様は皆様が生まれる前から愛していた」と私は言いました。それは真実です。それを知らせるためにイエス様が来られました。過ぎてしまう世の中、本当に無駄なエネルギーを使いながら捨ててしまう真実、宝物、それを思い出して見て下さい。何のために生きているのか、何のために生まれてきたのか。その目的どおりに私は愛されながら生きているのか。考えて見て下さい。

大体の人は「愛されるために生きています」と答えるのが一般的です。しかし愛された経験、体験がなかったら“愛”が訪れて来てもどのようにその“愛”に応えるのか分かりません。まず、私達は神様に本当に愛されているという、尊い、貴重な存在であることを認めることです。そうすれば、どの様にこの世の中を生きるべきか分ります。そして“私”だけでなく、私の目に入る全ての人々も愛されるためにこの世にいることを認めたら、この世の中はもっときれいになるでしょう。

信じて下さい。皆様は愛される価値、資格を元から持っています。愛されなければならないのです。その命、その生命力、私達がまず“変わらない愛”の源であるキリスト・イエス様を探してみましょう。何故なら人間の愛も素晴らしいです。しかし人間の愛には限界があります。人間の弱さはそれを最後まで、とこしえに持って行くのが困難なことです。人を恋しく思い、愛したとしても結局忘れてしまいます。どちらかが先に逝ってしまいます。(天国へ)昇る者も、残された者も結局は忘れるものです。それが人間の弱さです。しかし、それを乗り越える力、生きる生命力の源であるイエス様から頂くその愛を信じて下さい。

このように質問する人がいます。「人間をきちんと愛すれば神様を愛することになるでしょう？」しかし順番が違います。正しく神に愛を感じられた者は、正しく人間と係ることが出来ます。いつ許しをもらうべきか、いつ許すべきか、いつ愛を表現すべきか自動的に分ります。しかし自分の頭で自分の目を通して見る人間的な判断だけでは必ず失敗します。

私達は全て逝きます。今日この瞬間に生まれる赤ちゃんも逝きます。過ぎてしまうこの世の中で私

達が求めなければならないのは“変わらない”何か。“変わらない力”。皆様は愛されるために生まれて、愛される権利・資格を持っています。それを大事にしてください。

二番目に黙想したのは、この世の中、人類の歴史の中で、少し反省を込めた目で見ますと人類はこの発展のためにこの世の中を少なからず破壊して来ました。温暖化現象やまた氷山が溶け出し、近い将来その全てが無くなってしまおうと言う科学者もいます。イエス様が2000年前来られたのは、“人間は希望”であるということに悟らせるためです。どういうことでしょうか。

中国に“結んだものは自らそれを解くべきである(結者解之)”という言葉があります。人間が壊した世界だったら、人間だけが取り戻すこと、人間だけが正しい形に戻すことができます。イエス様は人間に希望をおくのを諦めませんでした。

2000年前に来られた二番目の理由、それは“人間は希望”であるからです。この世のことを振り返ってみますと、心を痛めることが毎日起こっています。しかし、そこからそういう悪い面から解放されるために、私達が人間を希望として認めて期待しなければならないのです。私達各自が“希望”にならなければならない。そして友達や前に立っている人にも“希望”が見えます。そういうことを悟らせて下さるためにもイエス様は来られたのです。人間は希望です。人間は呪いではありません。花より美しくならなければならないのが人間です。しかし、逆に私達は互いに本当に汚いその世の動きを見ます。しかし、イエス様が見せて下さった様に、人間に対する希望を失わないで下さい。まず自らが“希望”になって下さい。他の人に希望を与える希望になって下さい。そのことを私達が悟ることになったら、そのことをイエス様が一番喜ばれるのではないのでしょうか。

ある人は「人間が壊した自然を回復するには、人間でない何かの絶対的な力が必要」と言いますが、人間が壊したものは人間だけが直せます。その一環として、その一つの作業として、私達が自分から少しずつ変化して行けば、周りが少しずつ変わります。そういうことを皆様が伝えられる様に、身体で、心で全てのことを使って努力して下さい。その様になったら、もちろん辛くても疲れても、必ずその中には希望が溢れ、奪われない喜びがあります。

さあ、クリスマスです。私達が何故喜ばなければならないか、その理由について、少し黙想したことを分かち合ってみました。

私達はこのミサを通して、私達は愛されるために生まれて生きていくということ、そしてその目的を満たさなければならないことを心に入れましょう。

そしてもう一つ、私達は希望です。自分を大切にしながら自分が希望にならなければならないこと、そして神様は私達を諦めないこと。そう信じたら私達は変われます。

ありがとうございました。